

百人一首 上の句と下の句を線で繋ぎましょう ⑩

見せばやな
雄島の海人の
袖だにも

きりぎりす
鳴くや霜夜の
さむしるに

我が袖は
潮干に見えぬ
沖の石の

朝ぼらけ
宇治の川霧
たえだえに

恨みわび
ほさめ袖だに
あるものを

忘らるる
身をば思はず
誓ひてし

あらはれわたる
瀬々の綱代木

濡れにぞ濡れし
色は変はらず

人の命の
惜しくもあるか
な

衣かたしき
ひとりかも寝む

人こそ知らね
かわく間もなし

恋に朽ちなむ
名こそをしけれ